

7 公害苦情発生状況

平成30年度に受け付けた公害苦情は166件であった。このうち、典型7公害(大気汚染、水質汚濁、騒音、振動、悪臭、土壌汚染、地盤沈下)に係るものが17件であった。内訳は表7-1のとおりであった。

表7-1 各公害の件数

分類	公害の種類	件数
典型7公害	大気汚染	1
	水質汚濁	2
	騒音	6
	振動	0
	悪臭	8
	土壌汚染	0
	地盤沈下	0
	小計	17
その他	不法投棄	137
	その他	12
	小計	149
合計		166

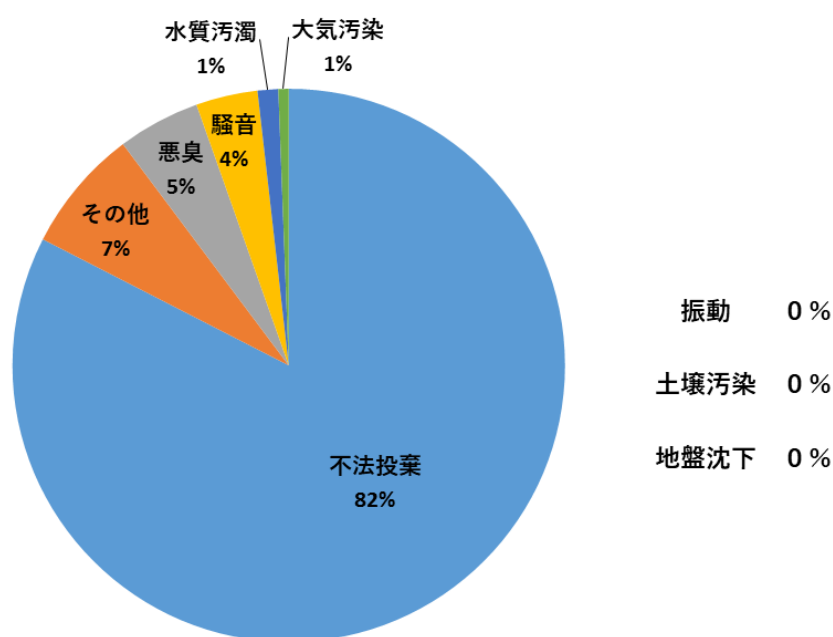


図7-2 各公害別割合

典型7公害のうち、苦情件数が最も多かったのは「悪臭」で8件であった。「悪臭」の原因は、畜産農業が4件、原因不明が4件である。次に多かったのが「騒音」の6件であり、工事による被害が4件、カラオケによる被害が2件であった。「水質汚濁」の苦情は2件で、原因は畜産と不明が各1件である。「大気汚染」は1件のみであり、原因は飲食経営であった。「振動」「土壌汚染」「地盤沈下」については苦情がなかった。

典型7公害以外について、不法投棄が137件、その他が12件であった。不法投棄の149件のうち、137件が家庭ごみの投棄によるもので割合としてはかなり多かった。その他の12件の内訳は全て野焼きであった。

表7-2 年度別苦情件数

年 度	件数
平成16年度	32
平成17年度	113
平成18年度	95
平成19年度	120
平成20年度	83
平成21年度	77
平成22年度	57
平成23年度	69
平成24年度	49
平成25年度	44
平成26年度	50
平成27年度	16
平成28年度	53
平成29年度	189
平成30年度	166

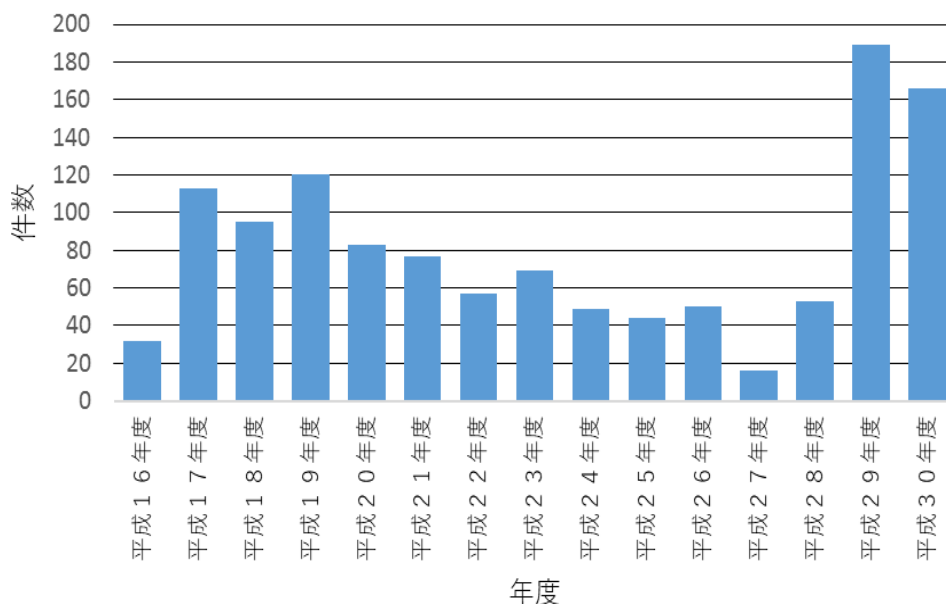


図7-2 苦情件数の推移

過去15年間の年度別苦情件数は、表7-2及び図7-2に示す。

近年の動向として、平成19年度から平成28年度まで苦情件数は減少傾向にあった。しかし、平成29年度は過去最大の苦情件数となった。これは監視員によるパトロールの強化により不法投棄の発見件数が増加したためである。

平成30年度の苦情件数は166件となり、そのうち137件が不法投棄であった。前年度と比べ不法投棄の件数は減少している。理由として、不法投棄監視委員によるパトロール、張り紙による警告、監視カメラによる監視などの対策の効果が出たと考えられる。